＜認知症対応型共同生活介護用＞

評 価 結 果 報 告 書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2371501277
法人名	有限会社スリーハンズ
事業所名	グループホームなでしこ猪子石原
訪問調査日	平成　21　年　3　月　4　日
評価確定日	平成　21　年　3　月　20　日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2371501277
法人名	有限会社スリーハンズ
事業所名	グループホームなでしこ猪子石原
所在地	愛知県名古屋市名東区猪子石原2丁目717 （電　話）052-774-6701

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地N203号室		
訪問調査日	平成21年3月4日	評価確定日	平成21年3月21日

【情報提供票より】（21年2月15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　18　年　3　月　16　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	19　人	常勤　16 人，非常勤　3 人，常勤換算　12 人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	66,000　円		その他の経費（月額）	24,000　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（288,000円）		有りの場合 償却の有無	有（3年）
食材料費	朝食	300　円	昼食	300　円
	夕食	500　円	おやつ	100　円
	または1日当たり		円	

（4）利用者の概要（2月15日現在）

利用者人数		18 名	男性	2 名	女性　16 名
要介護1		6　名	要介護2	3　名	
要介護3		5　名	要介護4	3　名	
要介護5		1　名	要支援2	名	
年齢	平均	87.1 歳	最低	77 歳	最高　96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	いのこし病院、医療法人社団大栄会名古屋中央歯科室

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームなでしこ猪子石原は、幹線道路から少し離れた所にあり、静かな住宅街に建っている。運営法人にとって2か所目のホームである。職員は、「なでしこ」の花言葉にある「細やかな思いやり」につながるように、「その人らしい尊厳ある生活を大切に」という理念を持って、日々ケアにあたっている。職員の取り組みとして、生活記録、気づき表には、一人ひとりの一日の様子が細かく、様子や見守り状況が記入されており、職員の引継ぎや家族への報告に役立てている。管理者、職員は、熱意を持って前向きに取り組んでおり、職員の離職も多い現状があるが、日々、質の高い介護と支援に心掛けている。今後、職員が定着することを願わずにいられない。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回課題にもあった地域との交流については、地域や学校の行事に参加したり、気軽にホームに来てもらえる取り組みを続けている。また、職員の離職については、容易には改善できない現状にあるが、利用者、家族に影響が出ないように細かな配慮に努めている段階である。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 今回の自己評価には、主に5人の職員が中心的に取り組まれた。日頃から事業所独自の自己評価（月1回：20項目、半期に1回：100項目）を行っており、それをつなげている。外部評価についても振り返りの機会になるように考えている。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** 運営推進会議については、名称を「なでしこぽっぽ会」として、2か月に1回開催している。出席者には、家族、民生委員、自治会長、他のグループホーム長の参加にて行っている。ホームの報告や運営についての意見交換等を行っている。また、認知症の理解を深めるための勉強会（例えば投薬のこと）も行っている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 家族が月1回は訪問されるため、そのときに生活の様子や運営上の問題点等を話をしている。意見箱は玄関に設置しているが、家族が定期的に訪問しているため、現状、意見は寄せられていない。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** ホームとして町内会には入っているが、この地域に老人会がないため、現在のところ入っていない。地域との交流では、中学生のボランティアを受け入れたり、毎月2～3人の人を「いきいきサロン」に参加している。また、毎月2人ずつ民生委員主催の食事会に招かれて、交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい尊厳のある生活を大切に」を理念とし、今までの生活により近く、その方に一番してほしいことをしたいと考えるように、より質の高い介護と支援に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有については、ケアカンファレンス、スタッフミーティングのときに、ホーム理念を念頭に話し合っている。職員は、理念を理解しながら日々取り組むようにしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは「こども110番」の指定を受けている。地域との交流では、毎月2～3人の方を「いきいきサロン」に、交代で職員と参加している。秋の小学校の運動会見学にはスタッフが参加したり、中学校のボランティア部の訪問が定期的にある。ホームが地域の町内会の組長になったときは、年4回清掃活動に参加した。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については、主に5人の職員が自己評価に参加して、取り組み、最終的にホーム長がまとめている。職員は、年1回の自己評価のほかにも、事業所独自の自己評価についても、前向きに取り組んでおり、自分を知る良い機会になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開かれており、会議の名称も「なでしこぽっぽ会」と親しみやすくしている。出席者は利用者家族、民生委員、自治会長、他GHのホーム長等である。内容は、ホームからの報告事項や、ホームに望むことの聞きとり等の他、認知症の勉強会を行なうなど、継続して続けられるように内容を工夫している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの現状として、行政機関との日常的な交流がなく、意見交換を行なう機会がないため、市町村との連携等は持たれていない。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、2か月に1回、運営推進会議議事録の「なでしこぽっぽ会」を、月1回写真入りの「なでしこ通信」を発行している。家族は、最低でも月1回は訪問されるので、手渡しにしている。訪問の際には、日々の生活記録を見てもらい、印をもらっている。小遣いについては、預り金の毎月収支報告を1か月単位で報告してい		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームには家族会があり、そのうちの2名が運営推進会議に出席している。利用者の不満について、家族を通じて来た際には、解決に向けて取り組んでいるが、内容によっては解決できない時もある。そのときでも、細やかにコミュニケーションをとるようにして、理解を得るようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームでは、ユニットリーダー2名、サブリーダー2人を固定しないで、月毎に担当するユニットを替わっている。現状、職員の定着が思わしくないが、柔軟に対応する為に行なっている。このような取り組みをしながら、職員が離職しても利用者にダメージがないように努めている。	○	今後に向け職員の定着を図られたいが、様々な要因で難しい面があると思われる。例えば、実習生を受け入れることなど、よくホームのことを知ってもらう取り組みや、職員の不安や不満を軽減させる職員へのフォロー体制充実の取り組みなど、継続して検討されたい。
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の中には、ホームに勤めながら介護福祉士等の資格を取得した者もおり、ホームでも資格の取得をサポートする為に費用を半額援助する取り組みをしている。新しく入った職員に対しても、先輩職員が丁寧に教えながらサポートしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会に加入しており、1か月に1回の研修には、2名くらい職員も参加している。今後、リーダーミーティングに他のホームのホーム長同士の研修をしたいと考えているところである。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームに入居をした方の半数くらいが、体験入居を経て入居に至っている。体験入居をすることで、ホームに親しんでいく様子を見ながら、方針や具体的な支援内容について説明、納得を得るようにしている。入居後、帰宅願望のある方には、職員が家族に話し、場合によっては一緒に泊まってもらうことも可能である。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として敬う姿勢を忘れず、日常生活での声かけや雑談から、ホームの庭にある家庭菜園をしたり、食事の下ごしらえを一緒にやったり、職員は、利用者とともに一緒に生活することを大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの思いや希望、意向を日々の声かけや雑談、家族からの情報等から引き出すようにしている。担当者は、ホーム独自の「気づき表」に記録し、朝・夕の申し送り時やミーティングで情報を共有、介護計画に反映させている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員は、「気づき表」を担当者が毎日記入し、利用者一人ひとりの状況を把握することに努めながら、介護計画を作成するようにしている。作成された介護計画は、家族に説明し納得を得た上でサインをもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況については、職員間のカンファレンスで把握し、毎月2～6人ずつ見直し、3か月くらいで見直している。職員は、毎日介護計画をチェックし、状態に変化があればそれを見直し、プラン変更につなげている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームでは、医療連携体制をとっており、提携している医療機関から医師による訪問を受けている。さらに、提携している訪問看護ステーションからは、24時間オンコール体制がとられている。また、訪問マッサージも受けられ、多い方で週3日受けている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームには、提携している医療機関から医師が木・日曜日以外は、毎日訪問している。このように医療面でのサポートが充実していることもあり、入居している利用者は、全員、提携医療機関をかかりつけ医に選んでいる。また、年1回送迎つきで、レントゲン、血液検査を行っている。なお、認知症専門医による受診については、家族に同行をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状、重度になってきたら病院に入院されており、看取りについてはまだ実績がない。医療連携体制をとったこともあり、職員や家族の間での話し合いや必要な知識の習得等については、今後の課題になっている。	○	医療連携をとることによって、医療面での支援が充実しつつあるため、ホームとしてどこまで可能か、また本人・家族の希望を聞き取り、今後は、終末期における同意書等を作成し同意をとるような取り組みに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活記録については、事務所で記入し、読むのも利用者の前では読まないようにしている。トイレは他の利用者に気づかれないように声かけをしたり、ノックをしている。個人情報漏洩を防止するため、職員には誓約書を書いてもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースや思いに添った支援に心掛けている。職員は、決定権は利用者にあるという前提で接しながら、利用者に何かしてほしいときに声かけをして、それが拒否されたときは、無理をせずに、しばらく時間をおいてから声をかけるようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、リビングで職員と利用者が一緒に摂っている。食事の下ごしらえや食器の配下膳、洗い物など、できる人にはやってもらっている。食事のメニューについては、1階ユニットと2階ユニットで違うこともある。きざみ食、とろみ食、ミキサー食の方には、職員が声かけしながら対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により毎日入浴も可能である。入浴の時間は、午前中から夕方までの日中に1日4～6名の方が入浴している。利用者の中には、訪問した家族と一緒に入浴したり、銭湯に行ったり、柔軟に対応している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日の生活リズムとメリハリをつけるために、したい方は、活け花、抹茶、習字などをされている。テレビについては、電源を入れたままにはせずに、必要なときに見たい番組のみを見るように心掛けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでは、日常的な外出として、喫茶モーニング、毎朝の散歩などを行っている。利用者の中には、毎週訪問する家族と外出する方もいる。また、地域行事やコミュニティセンター、いきいきサロンに順番に参加して頂く役割の支援をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関には鍵かけを行っていない。一人で外出される方は、現状いないが、外出しようとされたときは、声をかけたり、さりげなくついて行くようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に一度、火災、地震を想定した避難訓練を行っている。職員の緊急連絡網もできている。以前は、ホームの避難訓練を毎月行っていたが、職員の入れ替わりが多く、訓練の回数が減ってしまっている。	○	職員からも夜の緊急時に対する対応に不安が感じられている。職員間で、夜を想定した避難訓練を行うとともに、地域住民との関係についても深めていくことを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、栄養管理台帳に食事、水分摂取量を記入して、栄養摂取状況の把握に努めている。食事はとろみ食、ミキサー食にも対応し、口腔ケア介助も行っている。利用者の嚥下能力を維持するために、嚥下体操も実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの共用空間は、採光も良く、ホーム全体が見渡せる構造になっている。居室はリビングを囲むように配置されてあり、移動が楽にできるようにしてある。また、ホームの南側には、菜園があり野菜や花が植えられてある。庭にはリビングから出ることができ、菜園の世話が好きな方が水やりなどをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム居室には、個人の小物入れ、タンスなどの家具が持ち込まれている。自分で活けた花が居室にある。居室の戸の窓が大きいことで、個人のプライバシーが損なわれているのでは、という思いから、居室の戸には、貼り絵で作った大きな表札が貼ってある。		